



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月7日

上場会社名 ナカバヤシ株式会社

上場取引所 東

コード番号 7987 URL <https://www.nakabayashi.co.jp/>

代表者 （役職名）代表取締役社長執行役員 （氏名）中林 一良

問合せ先責任者 （役職名）取締役上席執行役員管理統括本部長 （氏名）長井 俊介 TEL 06-6943-5555

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	14,092	△1.0	527	△5.1	652	△3.0	445	△24.1
2026年3月期第1四半期	14,235	1.0	555	479.9	672	154.4	587	288.6

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 772百万円（93.3%） 2026年3月期第1四半期 399百万円（86.5%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	16.43	—
2026年3月期第1四半期	21.38	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	52,552	31,397	59.4
2026年3月期	54,080	30,950	56.9

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 31,223百万円 2026年3月期 30,785百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	10.00	—	12.00	22.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	10.00	—	12.00	22.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	29,000	2.8	1,300	27.5	1,400	16.0	700	205.4	25.81
通期	66,000	7.1	3,300	14.8	3,650	13.4	1,950	0.8	71.89

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	28,794,294株	2026年3月期	28,794,294株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	1,670,173株	2026年3月期	1,670,173株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	27,124,121株	2026年3月期1Q	27,465,266株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等へのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想に関する注意事項等につきましては、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、設備投資の堅調な推移、雇用・所得環境の改善、およびインバウンド需要に支えられ、緩やかな景気回復が続きました。一方、中国経済の減速や通商政策の動向、米国の関税政策、ウクライナおよび中東情勢をはじめとする地政学リスクの高まりに伴う資源価格の変動、円安の進行による輸入物価の上昇等により、先行きは不透明な状況が続いております。今後は、賃金上昇率が物価上昇率を安定的に上回り、個人消費の拡大につながるかどうか、景気の先行きを左右するものと考えられます。

当社グループを取り巻く事業環境では、ライフスタイルや企業活動の大きな変化への対応が求められております。当社グループは、パーパス「It's for SMILE」の理念に基づき、人生100年時代にふさわしい価値ある商品・サービスを創出し、企業価値の向上に努めております。

このような中、当社グループは2024年5月に第4次中期経営計画（2024年4月1日～2027年3月31日）「Go on 5ing」（ゴー・オン・ゴーイング）を策定いたしました。本計画では「収益力の強化」「成長力の推進」「株主価値の向上」の3つの基本方針のもと、DXの推進、消費潮流の変化を捉えた製品・サービスの創出、および経営資源の最適配分に取り組み、計画の達成を目指しております。特にDXの推進では、各事業へのデジタル技術の活用により、営業活動の効率化・高度化が進み、新規受注につながるなど、具体的なシナジー効果が現れつつあります。

当第1四半期連結累計期間においては、ナカバヤシファクトリーへの製造部門の集約による製造原価の低減に取り組みました。受注面では、前年度の大型特需案件の反動による売上高および利益の減少があったものの、引き続き採算性や利益率を重視した案件の選別を実施しました。また、製品販売では、新製品の開発および販売価格の見直しにより、円安の進行等による原価上昇の吸収に努めました。以上の結果、売上高は140億92百万円、営業利益は5億27百万円、経常利益は6億52百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億45百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は下記のとおりであります。

売上高	140億92百万円	(前年同四半期比 1.0%減)
営業利益	5億27百万円	(前年同四半期比 5.1%減)
経常利益	6億52百万円	(前年同四半期比 3.0%減)
親会社株主に帰属する四半期純利益	4億45百万円	(前年同四半期比 24.1%減)

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① ビジネスプロセスソリューション事業

BPOサービスにおいては、入札競争の激化により受注金額は減少したものの、継続的なプロポーザル（提案型）案件、株主優待サービス（申込受付から商品発送までを一括代行）、Web制作関連の高収益案件、スキミングサービスの拡販などによる新規受注の獲得に努めました。

手帳、封筒、および一般印刷物については、価格改定に加え、クリエイティブ性の高い高粗利商材の受注が進んだものの、全体としては売上高・利益ともに減少しました。

シール・ラベル関連では、ラベルの販売の増加に加え、生産性の向上等により利益率が改善し、好調に推移しました。

図書館ソリューションでは、利益率の高い指定管理（図書館運営）などを受託しており、製本関連については受注が減少したものの、販売価格の見直しによる利益率の改善効果が現れております。

卒業アルバム関連においては、過年度に実施した製造部門統合の成果により、収益性は改善傾向にあります。

この結果、当事業の売上高は64億97百万円（前年同四半期比6.7%減）、営業利益は1億58百万円（前年同四半期比21.8%減）となりました。

② コンシューマーコミュニケーション事業

製品販売においては、大口OEM受注の増加、大型店舗の新規出店に伴う商品導入、新製品のWeb掲載件数の増加等により売上高は堅調に推移しました。ホームセンターにおける既存の定番商品の売上高は減少したものの、新製品「ナカメラシリーズ」やラミネーター「クイックラミA3Pro」等の販売が好調に推移し増収となりましたが、仕入価格の上昇により、利益は前年同期を下回りました。

シュレツダ販売では、パーソナルシュレツダの新機種の販売が好調に推移しました。また、大型シュレツダの販売増加に加え、消耗品の販売価格の見直しや保守サービスの提供も堅調に推移しました。

ＥＣ関連の販売は順調に推移し、サイト運営の効率化により収益性も向上しました。オフィス家具分野では、リピート率や客単価の向上により売上高は増加したものの、物価高によるコスト上昇により、利益は減少しました。自社製品のＥＣ展開は順調に拡大しました。

ぬいぐるみビジネスにおいては、従来の香港・中国に加え、欧米、東南アジアおよび中東への販路拡大を推進しております。

この結果、当事業の売上高は72億42百万円（前年同四半期比4.1%増）、営業利益は3億67百万円（前年同四半期比15.6%減）となりました。

③エネルギー事業

木質バイオマス発電は、木質チップの調達量増加により、安定した稼働を実現し増収増益となりました。太陽光発電は順調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は3億37百万円（前年同四半期比13.2%増）、営業利益は25百万円（前年同四半期営業損失25百万円）となりました。

④その他

野菜プラント事業および、にんにくファーム事業等であり、当事業の売上高は14百万円（前年同四半期比29.4%減）、営業損失は3百万円（前年同四半期営業利益7百万円）となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

〔資産〕

流動資産は、前連結会計年度末に比べて18億1百万円減少し、261億78百万円となりました。これは商品及び製品が8億66百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金が23億27百万円、現金及び預金が10億13百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2億73百万円増加し、263億73百万円となりました。これは投資有価証券が4億16百万円増加しましたが、機械装置及び運搬具が1億34百万円減少したことなどによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べて15億27百万円減少し、525億52百万円となりました。

〔負債〕

流動負債は、前連結会計年度末に比べて5億4百万円増加し、137億70百万円となりました。これは短期借入金16億23百万円増加しましたが、未払金が4億94百万円、未払法人税等が4億79百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて24億79百万円減少し、73億84百万円となりました。これは繰延税金負債が2億43百万円増加しましたが、長期借入金が26億89百万円減少したことなどによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて19億74百万円減少し、211億55百万円となりました。

〔純資産〕

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4億46百万円増加し、313億97百万円となりました。これはその他有価証券評価差額金が2億82百万円、利益剰余金が1億20百万円それぞれ増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は59.4%となり、前連結会計年度末に比べて2.5ポイント上昇いたしました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月8日発表時の業績予想の修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,796	5,782
受取手形及び売掛金	9,423	7,096
商品及び製品	6,515	7,381
仕掛品	1,121	1,537
原材料及び貯蔵品	1,816	2,090
その他	2,308	2,292
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	27,980	26,178
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,275	6,190
機械装置及び運搬具（純額）	3,313	3,179
土地	8,970	8,970
建設仮勘定	29	36
その他（純額）	200	214
有形固定資産合計	18,790	18,590
無形固定資産		
その他	204	187
無形固定資産合計	204	187
投資その他の資産		
投資有価証券	3,756	4,172
退職給付に係る資産	2,364	2,382
繰延税金資産	230	218
その他	762	829
貸倒引当金	△9	△8
投資その他の資産合計	7,104	7,594
固定資産合計	26,100	26,373
資産合計	54,080	52,552

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,216	3,200
短期借入金	4,250	5,874
未払金	2,409	1,914
未払費用	395	397
未払法人税等	612	132
賞与引当金	669	400
その他	1,711	1,850
流動負債合計	13,265	13,770
固定負債		
長期借入金	6,362	3,673
退職給付に係る負債	2,522	2,513
繰延税金負債	390	633
その他	587	563
固定負債合計	9,863	7,384
負債合計	23,129	21,155
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,666	6,666
資本剰余金	8,944	8,944
利益剰余金	13,398	13,518
自己株式	△865	△865
株主資本合計	28,143	28,264
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,560	1,843
繰延ヘッジ損益	28	80
為替換算調整勘定	62	75
退職給付に係る調整累計額	989	960
その他の包括利益累計額合計	2,641	2,959
非支配株主持分	165	174
純資産合計	30,950	31,397
負債純資産合計	54,080	52,552

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	14,235	14,092
売上原価	10,421	10,292
売上総利益	3,813	3,800
販売費及び一般管理費	3,258	3,273
営業利益	555	527
営業外収益		
受取賃貸料	38	32
受取配当金	49	51
受取保険金	45	43
その他	38	37
営業外収益合計	172	165
営業外費用		
支払利息	26	24
貸与資産諸費用	9	10
その他	20	6
営業外費用合計	55	40
経常利益	672	652
特別利益		
固定資産売却益	37	0
為替換算調整勘定取崩益	174	—
特別利益合計	211	0
特別損失		
固定資産処分損	0	1
投資有価証券売却損	0	—
特別損失合計	0	1
税金等調整前四半期純利益	883	650
法人税、住民税及び事業税	111	84
法人税等調整額	195	111
法人税等合計	307	196
四半期純利益	576	454
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△10	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	587	445

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	576	454
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	63	282
繰延ヘッジ損益	△52	51
為替換算調整勘定	△183	12
退職給付に係る調整額	△4	△29
その他の包括利益合計	△176	317
四半期包括利益	399	772
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	410	763
非支配株主に係る四半期包括利益	△10	8

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビジネス プロセス ソリューション 事業	コンシューマー コミュニ ケーション事業	エネルギー事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,962	6,954	297	14,214	20	14,235	—	14,235
セグメント間の内部売上高又は振替高	350	173	—	524	2	527	△527	—
計	7,313	7,128	297	14,739	23	14,762	△527	14,235
セグメント利益又は損失(△)	202	435	△25	613	7	620	△64	555

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、野菜プラント事業及びびんにくファーム事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△64百万円には、セグメント間取引消去30百万円、棚卸資産の調整額6百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△101百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビジネス プロセス ソリューション 事業	コンシューマー コミュニ ケーション事業	エネルギー事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,497	7,242	337	14,077	14	14,092	—	14,092
セグメント間の内部売上高又は振替高	363	95	—	459	2	461	△461	—
計	6,861	7,338	337	14,537	16	14,553	△461	14,092
セグメント利益又は損失(△)	158	367	25	552	△3	548	△21	527

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、野菜プラント事業及びびんにくファーム事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△21百万円には、セグメント間取引消去54百万円、棚卸資産の調整額0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△77百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	382百万円	326百万円